

學 報

Kobe College Bulletin

2025年 神戸女学院
創立150周年

150th
Bridging Generations

ISSN0389-164X

NO. 200 別冊

2026. 2 . 26
神戸女学院
学報委員会

神戸女学院創立150周年

神戸女学院は2025年10月12日、エミリー・ホワイト・スミス記念講堂において創立150周年記念式を守りました。1875年の開学以来、キリストの教え、国際理解の精神、リベラルアーツ、女性教育、少人数制に軸足を置く教育機関として、高い評価をいただけてまいりました。その志は、神の導きのもと、2人の創立者から、学ぶ人、働く人、ご奉仕くださる方々に担われ、今日に至ります。記念式はこの日に至る神の導きに感謝し、これからの新たな導きを祈り、さらなる展開を仰ぎ見、決意する、大切な機会となりました。



神戸女学院創立150周年記念式典

2025年10月12日(日)、神戸女学院創立150周年記念式典がエミリー・ホワイト・スミス記念講堂にて挙行された。

講堂内1階、前方にはオーケストラ用の席が設けられていた。その席の後ろから講壇に向かって右列の前方には、この記念式典のためにアメリカから来日されたコーベカレッジ・コーポレーション(Kobe College Corporation Japan Education Exchange—以下KCC)関係者3名(元KCC会長・Mr. Ed Grant and Ms. Terri Grant、元KCC推薦評議員・水野多美様)、ダッドレー先生(Miss Julia Elizabeth Dudley)のご親戚5名(Ms. Julia Vasser Samson and Mr. John Samson, Mr. Craig Holroyd and Ms. Patti Holroyd, Ms. Amy Duke)、デフォレスト先生(Miss Charlotte Burgis DeForest)のご親戚2名(Ms. Charlotte Alexandre and Mr. Doug Alexandre)の計10名が着席されているのが見える。来賓、学院関係者も1階の前方の席に座っている。現旧教職員、めぐみ会会員が席を埋めている。2階には大学生、中高部生徒がいる。壇上、下手に司式の学長・学院チャプレンの中野敬一先生、講壇の左側(下手側)には前列左から理事長・立石浩一先生、院長・飯謙先生、後列左から学院事務局長、中高部チャプレン、中高部長・森谷典史先生、講壇右側(上手側)には西宮市長・石井登志郎様、キリスト教学校教育同盟関西地区代表理事・関西学院院長の中道基夫様、KCC会長・大東由季様、公益社団法人神戸女学院めぐみ会会長・米津博子様が着席している。

記念式典は3部構成となっており、その都度、総合司会の特別客員教授・西靖先生のアナウンスがあった。

第1部記念式は13時30分から始まった。学院オルガニストのオルガンの前奏に続き、一同で「われのかみにちかづかん」を唱和した。森谷先生による聖書の朗読(マタイによる福音書22章34-40節)に続いてチャプレンが祈祷を捧げられた。

飯先生の式辞のあと、一同で学院歌を歌い、4名の来賓から祝辞をいただいた。

頌栄544番を歌ったあと、元学院チャプレン・神戸女学院大学名誉教授の茂洋先生から祝辞を受けた。

この後、総合司会の西先生からプログラムにない

お知らせがあった。内閣総理大臣・石破茂氏よりビデオメッセージが寄せられており、そのメッセージがスクリーンに映し出された。

西先生から兵庫県知事・斎藤元彦氏の祝辞の披露もあった。

この後、理事長からめぐみ会に感謝状の贈呈があった。めぐみ会は創立150周年に当たり学院に1億円の寄付をくださった。

最後に廊下に展示されている掲示(阪急電鉄大阪梅田駅ムービングウォーク横の大型広告の紹介)の案内のあと、休憩となった。

20分の休憩をはさんで14時45分から第2部の記念演奏が行われた。合唱、ウインドオーケストラ、オーケストラの3曲が演奏された。いずれの曲も初演であった。

休憩を15分はさんで15時30分から第3部の記念講演に移った。本学名誉教授・内田樹先生による「神戸女学院の擁護と顕彰」と題する講演であった。

講演終了後、立石先生から閉会の挨拶があった。KCCとめぐみ会への感謝の言葉をもって閉会の挨拶は終わった。

16時25分、記念式典は盛会のうちに無事終了した。式典出席者は来賓、KCC関係者、めぐみ会、学生生徒、教職員をあわせて約500名であった。

閉会后、17時からめぐみ会主催でめぐみ会館においてKCC歓迎レセプションが開催された。

(神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵)



講堂前にて

神戸女学院創立150周年記念式

神戸女学院創立150周年記念式典第1部記念式は13時30分から始まった。オルガンの前奏に続き、一同で唱和した讃美歌は1874年に刊行された神戸組合教会最初の讃美歌の第一番で、学院創立当時に歌われていたものである。当時の歌詞で歌った。森谷先生による聖書の朗読に続いてチャプレンが祈祷を捧げられた。150周年の幸いに感謝し、神戸女学院がこれまでそれぞれの時代に希望を灯してきたことを覚え、学院が古びない使命をもって、新たな希望を与えていけるようにと。

飯先生は式辞の中で、歴史を紐解いて、26名で始まった小さな学校が今日あるのは祈りと奉仕によることに触れ、この神の業を共に喜びたいと言われた。キリスト教の信仰の核心は神への応答である。宣教師、キリスト者に市井の人々が加わり用いられるという相互受容によって学校は生まれ、向かい合う課題に対応して志を共にしてきた。神戸女学院は神の呼びかけに応答し、共感することで愛神愛隣を具現している。神に招かれていることに感謝をもってとらえたい。最後に先生は女性教育を継続する決意を述べて式辞を終えた。

一同で学院歌を歌い、4名の来賓から祝辞をいただいた。

石井様は西宮市に神戸女学院があることの価値について話された。西宮市が文教都市として住みたい町ナンバーワンとしてあるのは、神戸女学院が生態系を守ることを担ってくれたからに他ならない。卒業生の活躍は岡田山キャンパスと女子大学であるというバックボーンがあり、ぶれない姿勢を保ち続けていることにある。区切りは次へのスタートである。これからも共に歩んでいきたい。

中道様は学院の永久標語に言及してキリスト教精神について語られた。西郷隆盛は「敬天愛人」といった。それは見えないものを敬うという意味である。関西学院2代目院長の吉岡美国は「敬神愛人」といった。天から一步進んで神を敬うことである。神戸女学院の「愛神愛隣」はさらに一步踏み込んで隣人という、より具体的なものが示されている。単なる人でもなく他者でもない隣人の発見はキリスト教の最大の発見である。新たな隣人を発見す

ることと愛することは、現代に不可欠の資質である。この業が実践に息づいていくことを祈る。

大東様は英語でのスピーチであった。創立者の働き、デフォレスト先生とKCC、そしてパートナーとしてのKCCとめぐみ会について話され、最後に神戸女学院のさらなる発展を祈ると締めくくられた。

米津様は同窓生として、歴代院長を始め学生・生徒を育ててくれたすべての人々に感謝を伝え、何度も難局にあった学院をKCCとめぐみ会が支えてきたことを語った。岡田山キャンパスはこの2つの組織が協力して成し遂げたものである。めぐみ会は社会貢献を目的・目標に活動している。「全力で駆け抜けましょう。そこに神様が道を用意してください。」

頌栄544番を歌ったあと、祝辞をくださった茂先生は本学院創立100周年の記念式でも祝辞をくださった。今回も講壇に上がって一同への祝福をお祈りくださった。

この後、総合司会の西先生からプログラムにないお知らせがあった。内閣総理大臣・石破茂氏よりビデオメッセージが寄せられたという。石破氏は第1回卒業生・金森(旧姓・西山)小壽が曾祖母に当たること、小壽の夫・金森通倫が牧師であり、その息子の妻・金森花子、つまり祖母も神戸女学院の卒業生であることを、丁寧に説明された。そして現在の日本におけるジェンダーの問題に触れ、神戸女学院の女子教育はジェンダー・ギャップ解消の力になるとの力強いメッセージをくださった。

西先生から兵庫県知事・斎藤元彦氏の祝辞の披露もあった。

この後、理事長からめぐみ会に感謝状の贈呈があり、14時25分記念式は終了した。

(神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵)



記念式

式 辞

院長 飯 謙

皆様、創立150周年、おめでとうございます。維新から間もない時期に、神戸・山本通で、3名の寄宿生、そして23名の通学生からなる小さな学び舎が誕生し、幾多の困難に見舞われながらも、多くの人の祈りと奉仕を得て、本日の記念の時へと導かれました。これは、神の業、神の出来事でございます。と一緒にそれを喜び合い、感謝を共にいたしたく存じます。

聖書の信仰の特徴は、神が人に呼びかけ、その人が応答し、神がそれを用いて意志を実現するところに見いだされると申します。新約聖書のヘブライ人への手紙の冒頭にある、神はいろいろな時にいろいろな方法で語られたというフレーズは、この特徴を言い表しています。創世記巻頭の創造伝承も、その元となるメッセージを伝えています。

タルカット先生とダッドレー先生——まさにお二人は、神からの呼びかけを受けとめて神戸にいらっしゃり、聖書のメッセージにつながる、幅広い宣教活動を展開されました。神戸ステーションの先生方、米国アメリカンボードの支援者、神戸の教会に連なる方々、またそのつながりの輪の中にあった九鬼隆義や白洲退蔵など、多くの人がある呼びかけに応え、参与者として加わり、用いられ、女学校の立学に至ることができました。それは、聖書に基づいて、相互受容の精神を深め、弱い立場にある人を強め、女性教育を拡幅し、規模の大きさやその力に頼らず、向かい合う課題に正面から対応する人を育て、送り出す使命を、深く自覚する学び舎です。そうして、その思いに、同窓会（めぐみ会）、KCC、家庭会、西宮市を始め兵庫県、関西、地域の関係者、教会と学校関係者、継続してお助けくださっている業者様など、多くの皆様がお心を寄せてくださり、お力添えをくださり、志を共にしてくださり、今日があります。感謝申し上げます。

今日、私は、神戸女学院の150年が、まず神の呼びかけがあり、それに応答する人があって、さらにそれに共感する人が現れ、その拡がりの中で学院が建てられ、導かれたこと、それが神を想い、隣人を想

う「愛神愛隣」を具現する出来事、神の出来事であったことを申し述べました。私どもは本日、創立150年目の喜びの日を迎えるにあたり、その原点を、改めて心に刻みたく存じます。そして今日まで導かれたことを、感謝をもって受け止め、これまでに示されてきた課題——キリスト教学校であること、国際理解の精神、少人数制、リベラルアーツの伝統に立つこと、そして女性教育機関であり続けること——これらを、正しく継承する決意の機会といたしましょう。

神戸女学院のこれからの歩みの上に、皆様の上に、主の祝福と導きが豊かにございますようお祈り申し上げます。

ようこそ、岡田山へ

Kobe College Corporation Japan Education Exchange（以下、KCC）は1920年、第5代院長デフォレスト先生の呼びかけで米国の中部婦人伝道会の助けによりシカゴに設立された神戸女学院の支援団体です。

創立150周年記念式典にKCCご関係者、創立者のお一人であるダッドレー先生のご親戚、第5代院長デフォレスト先生のご親戚がアメリカからご出席くださいました。ダッドレー先生がお使いになられた茶器、デフォレスト先生が同窓生から贈られた久谷焼の花瓶を学院にご寄贈くださいました。

KCCからの長きにわたるご支援、また学院との関係を世代を超えて大切に思ってくださいる方々のご訪問にあらためて感謝いたします。

（150周年事務局）



10月12日中庭にて

記念演奏

2025年10月12日に執り行われた「神戸女学院創立150周年記念式典」の第2部では、記念演奏が行われた。始めに、創立150周年を記念して委嘱された、飯謙院長訳詞・なかにしあかね教授作曲による合唱曲「詩編150編 神をたたえよ 音高らかに」と、八木澤教司准教授作曲の吹奏楽曲「愛の橋はここに架かりて」の2曲が披露された。続いて、ヨーゼフ・ラスカ作曲「神戸女学院卒業式のための行進曲」が、佐々比香莉編曲、松浦修教授監修によるオーケストラ版として復刻・初演された。

以下には式典プログラムに掲載された曲目解説からの抜粋を示す。

1. 合唱

「詩編150編 神をたたえよ 音高らかに」

飯 謙 訳詞／なかにしあかね 作曲

合唱：神戸女学院150周年記念合唱隊

（「合唱特別実習」履修者）

指揮：なかにしあかね（音楽学科教授）／

ピアノ：浦部晏未（音楽学部伴奏要員・本学卒業生）

曲目解説：

神戸女学院創立150周年を記念して委嘱された女声3部合唱とピアノのための作品で、本日が初演となります。テキストには飯謙院長の御訳を使わせていただきました。全150編ある詩編のフィナーレにふさわしく、端的で力強く、大変音楽的な賛美です。テキスト中の「シンバル」が、現代のオーケストラ

楽器のシンバルとは大きく異なっていることなど、飯院長よりいただいた様々なご示唆を考え併せながら、ピアノ伴奏に多彩な音楽表現を盛り込みました。曲の冒頭からラストまで「ハレルヤ」と歌われるたびに、日々の様々な営みの中に共にある賛美を表現したいと願っています。学生たちの清楚ですがすがしいエネルギーに満ちた賛美が、本学150年の歴史の節目に響くことを、光栄に思います。

（音楽学科教授 なかにし あかね）

2. ウインドオーケストラ

「愛の橋はここに架かりて」

八木澤教司 作曲

演奏：神戸女学院大学音楽学部ウインドオーケストラ／
指揮：八木澤教司（音楽学科准教授）

曲目解説：

神戸女学院創立150周年記念委嘱作品。学院の理念「愛神愛隣」を踏まえ、タイトルには「愛が人々をつなぎ、未来への希望を架ける」というメッセージを込めました。この作品は、学院の歴史と精神に敬意を払いながら、卒業生、在学生、その他多くの関係者の愛と絆を象徴する音楽として描きました。作品は静寂な序奏から始まり、愛の力強さを感じさせるクライマックスへと展開します。これは学院の150年の歩みを振り返るとともに、次の世代へと受け継がれる伝統を意味しています。本日、記念式典での世界初演という特別な瞬間を皆様と共有できますことを心より嬉しく思います。

（音楽学科准教授 八木澤 教司）



合 唱



ウインドオーケストラ

3. オーケストラ

「神戸女学院卒業式のための行進曲」

March for the Graduation Ceremony for the Kobe College

ヨーゼフ・ラスカ 作曲／

佐々比香莉（本学卒業生）編曲／松浦 修 監修

演奏：神戸女学院大学音楽学部オーケストラ／

指揮：松浦 修（音楽学科教授）

曲目解説：

ヨーゼフ・ラスカは、1928年から1935年まで本学音楽部教授として音楽教育に尽力しました。本学音楽学部図書室には、同氏が作曲した作品の楽譜資料が残されており、本行進曲はそのうちの1曲です。ピアノ独奏による行進曲で、後半では学院歌の旋律が奏でられ、1932年3月22日の卒業式において初演されました。150周年を記念し、本学音楽学部

ミュージック・クリエイション専攻を卒業し、ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞を受賞した佐々比香莉氏の編曲により、オーケストラ版による復刻、世界初演を行います。

（音楽学科教授 松浦 修）

ヨーゼフ・ラスカ（Joseph Laska, 1886-1964）

オーストリア出身の作曲家・指揮者。1923年来日し宝塚音楽歌劇学校教授に就任。

宝塚交響楽団を創設しブルックナーの交響曲の日本初演を多く手がけた。1928年から本学音楽部教授として教育に尽力するが、1935年にナチズム批判を理由に再入国を拒まれ帰国。戦時中は強制収容所に収監されるも、戦後はウィーンで活動を続け、晩年には《7つの俳句》を作曲し、日本への想いを示した。



オーケストラ

神戸女学院創立150周年記念講演

14時45分から始まった神戸女学院創立150周年記念式典第2部の記念演奏(合唱、ウインドオーケストラ演奏、オーケストラ演奏)終了後、15分の休憩をはさんで15時30分から第3部の記念講演に移った。

講演者は神戸女学院大学名誉教授・神戸女学院理事であり、武道と哲学研究のための学塾・凱風館館長である内田 樹先生である。「神戸女学院の擁護と顕彰」と題して講演があった。

マイクに向かって話をした人が皆、「150周年おめでとう」と言っている。神戸女学院理事でもあるインサイダーの自分が「おめでとう」と言っているのか、誰に向かって「おめでとう」と言うのか、という問いかけから話は始まった。「おめでとう」は「場」に向かって言う祈りのようなものと解釈できる。故に「おめでとう」と言ってもいい。

先ほどめぐみ会会長様の祝辞の中で「150歳のおばあさん」という表現があったが、まさしく神戸女学院は一つの「生き物」と言える。学校が「生き物」である、生命活動をしていると感じたのは神戸女学院が初めてである。国公立出身の自分の体験からすると、誰もおめでとうと言わない、言ってもらえなかった。誰も学校を愛していなかったと思う。

神戸女学院に来た時、神戸女学院のキャンパスは風水が良いと思った。最初の入学式の茂先生の祈祷で、初めて祝福を受けて衝撃を受けた。受け入れられた、招き入れられたと感じた。

校舎にも感動した。岡田山の校舎は声の響きを考えて設計されている。声を通り、いやな反響がない。音響を考えた素晴らしい設計である。故に学生たちの声、音、息遣いも聞こえる。小さな声を共有できる。声門が開く音が聞こえる。普通、学校建築では声の響きを考えて設計されていない。基本的に声を気にしていない。それに対してヴォーリズの校舎内では声を張り上げなくてもいい。生産的な絶句が可能である。ここに哲学がある。

また、校舎のあちこちにへこみがあったりして、ミステリー・ゾーンが存在する。1995年の阪神淡路大震災時に教職員でレスキュー隊を組織して全研究室に入ったが、一つとして同じ研究室はなかった。

この校舎では一部を見てすべてを知った気になることはない。好奇心を刺激するものがあり、その先に別の世界が広がっている。これはヴォーリズの贈り物である。見慣れた風景の中から別の風景、価値を見出すことができる。人から教えられるのではなく、「自分で発見してね」というヴォーリズからのプレゼントは90年前から生きている。かつてコンサルタントが「この土地を売れ、校舎には価値がない」という提言をしたが、それには断固反対した。

卒業生の遺贈がある。教育はもういない人々とまだいない人々と共に行う集団の営みである。単数ではなく複数である。教育はMissionがあるから生きている。学校の生命体としての価値はここにある。

教育は要不要ではない。「教えたい」が先にあり、「学びたい」はあとなのである。Missionとしての女子教育は必要である。女子教育にはそれにふさわしい場所がある。神戸女学院はそのトップランナーとなるべきであり、正しいMissionを行えばそれは可能である。「神戸女学院は生き物である。私たちはその細胞である。」

16時20分、内田先生の講演は終了した。

(神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵)



内田 樹先生

創立150周年特別記念礼拝 「かかわらなければ」

講師：沢 知恵 氏

<中高部>

日時：10月14日(火) 8時30分～9時10分

<大学>

日時：10月14日(火) 10時25分～11時15分

いずれも、エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

神戸女学院創立150周年にあたり中高部、大学がそれぞれ特別礼拝を守りました。講師には、永久標語「愛神愛隣」にふさわしい講話をしていただける方として、沢知恵氏をお迎えしました。

沢氏は1971年生まれの手がかりであり、ハンセン病療養所の「音楽文化研究者」でもあります。日本・韓国・アメリカで育ち、3歳からピアノを始め、1991年に東京藝術大学在学中に歌手デビュー。1998年には韓国で戦後初めて公式に日本語で歌い、日本レコード大賞アジア音楽賞を受賞されました。

2021年、岡山大学大学院を修了し、「ともえゴスペル&コーラス」を主宰するとともに、岡山大学非常勤講師として教育活動にも携わってこられました。さらに東京・下北沢ラカーニャでの季節公演をはじめ、ハンセン病療養所や災害被災地、少年院などでもコンサートを行い、音楽を通して「愛と希望」を届けておられます。

記念礼拝では、讃美歌430番「とびらの外に」、聖書『ローマの信徒への手紙』12章15節「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」が朗読された後、沢氏の独唱から講演が始まりました。曲は創立150周年のお祝いを兼ねて「Amazing Grace」で、日本語・英語・韓国語の三か国語で歌われました。

続いて沢氏は「みなさんは、人と関わることが好きですか？」と問いかけられました。この問いには多くの拍手がありましたが、「人と関わることが得意ですか？」という質問には拍手がまばらでした。沢氏は「悩みの大半は人との関わりから生まれる」と語り、「人は弱い生き物であり、人と関わるということは豊かなことである一方で、しんどく、不幸なこともある」と話を進められました。

沢氏は、牧師であるお父様の関係で、生後6か月から国立ハンセン病療養所の一つである大島青松園と関わりを持たれています。同園で13歳から70年間過ごされた塔和子さんの詩「胸の泉」を朗読し、「何億の人がいようと、かかわらなければ路傍の人」という言葉を紹介されました。塔さんはハンセン病のために名前を変えられましたが、それは「自分はいなかったことにされる」ということを意味します。苦悩のなかでキリスト教と出会い洗礼を受けた塔さんは、「言葉」によって世の中や人と関わりたいと願い、人間の尊厳を問い続ける詩集を出版されました。

沢氏は、生後すぐに大島青松園に訪れましたが、園の人々は病とその偏見ゆえに幼子に触れることをためらったといいます。高校2年生の時にお父様を癌で亡くされ、再び大島青松園を訪ねられた際、元患者の皆さんが沢氏のことを覚えてくださり、深く感激されたそうです。以来、沢氏にとって大島青松園は「待っていてくれる人々がいる、生きることは感謝することと励まされ、自身の大切な場所となった」と語られました。

2001年から同園でコンサートを始められ、ハンセン病の人々と関わる中で、各教会に音楽（園歌）があることを知るようになりました。その記録は、ハンセン病患者のおられた教会の音楽文化を伝えるものとなり、修士論文へと繋がりました。

戦後80年を迎えた現在、元患者の皆さんには2世、3世がいなくなりました。沢氏は、生後6か月で大島青松園に行ったことは運命であり、彼らが生きて証を残すことが自分の使命であると語られました。そして「使命とはMissionであり、時間をかけて自分だけのMissionを見つけてほしい、無駄なことはなにもない」と伝えられました。また、永久標語「愛神愛隣」は変わることがなく、生きることはかかわることであると強調されました。さらに「希望をもって、勇気をもってかかわってほしい。共に喜び共に泣いて、愛を実践してほしい」と力強く語られました。

最後に塔さんの「選ぶこと」を朗読して講演を締めくくられました。150周年記念にふさわしいメッセージをいただいたことに深く感謝しています。

(チャプレン室)

神戸女学院創立150周年記念めぐみ講演会 ～森山良子コンサート～

10月18日、めぐみ会は歌手の森山良子さんをお迎えして、神戸女学院創立150周年記念のコンサートを開催しました。森山さんのお祖母様が神戸女学院の同窓生であるというご縁から森山さんの事務所に思いを込めたオファーを送り、夢のような企画が実現しました。

お祖母様の森山（旧姓・狭間）^{れき}さんは、1887（明治20）年に小倉に生まれ、幼い頃に通った小倉バプテスト教会でオルガンと出会いました。1905年12月、18歳で神戸女学院に入学します。当時、神戸・山本通にあった神戸女学院は、西日本で唯一音楽が学べる学校で、^{れき}さんはオルガンと英語を主に学びました。寮生活を送り、多くの学生と同様に神戸組合教会（現・日本基督教団神戸教会）に通い、金子卯吉牧師より洗礼を受けています。

1907年、小倉バプテスト教会で出会った森山三郎さんとの結婚のため退学し、翌年アメリカに移住しました。現地の教会ではオルガニストを務めていました。息子の久さん（森山良子さんのお父様）は幼い頃から母と一緒に教会に通い、聖歌隊のリーダーもしていました。^{れき}さんは、同窓会の加州支部会（現・北カリフォルニア支部）に積極的に参加して、留学生のお世話もしていたことが当時の『めぐみ』に記録されています。渡米後も神戸女学院とのつながりを大切にされていたのです。



総務館前で森山さんを囲んで記念撮影。森山さんは古い家族写真を持参されており、お祖母様とご一緒にの記念写真となりました。

コンサートは素晴らしいものでした。神戸女学院創立150周年記念礼拝が厳かに執り行われ、満席の講堂が静寂に包まれたなか、森山良子さんが登場。オルゴールの伴奏で「エターナリー」の澄み渡る歌声からコンサートが始まりました。懐かしい「この広い野原いっぱい」ではギターを弾きながら、「On the Sunny Side of the Street」では軽快なジャズで、「さとうきび畑」「涙そうそう」では聴く人の心の奥に響く歌声で、さまざまなジャンルの11曲を熱唱されました。アンコールの「聖者の行進」ではいくつもの楽器をフィーチャーしてのスカットに会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

トークではお祖母様のエピソードをいくつか紹介されました。何でも自分で作るDIYの人だったそうで、森山さんの手芸好きはお祖母様の隔世遺伝だそうです。

コンサートが終わって、森山さんはご自身のInstagramに「子供の頃から聞いていた沢山の物語の中の家族の歴史に、少し触れる事が出来た様で美しい空気感、歴史ある校舎、図書館、教会の静かな佇まいに癒されながらのコンサート。沢山の想いに触れた嬉しい一日でした」と投稿されています。森山さんにとっても思い出に残るコンサートとなったようです。

めぐみ会も神戸女学院創立150周年に森山良子さんをお迎えすることができ、記念の1ページとなりました。

（公益社団法人神戸女学院めぐみ会

副会長 川寄 敏子）



パワフルなパフォーマンスで観客を魅了

神戸女学院創立150周年記念展示 Ⅰ～Ⅲを振り返って

神戸女学院は2025年10月12日に創立150周年を迎えました。この節目を前に、図書館では2023年度から3年間にわたり、学院主催の「神戸女学院創立150周年記念展示」を本館にて開催してきました。本展示は、宣教師たちの祈りから始まった学院の歩み、教育理念の変遷、建築を中心としたキャンパスの歴史、そして未来への展望まで、学院の150年を多角的にたどる取り組みでした。本稿では、3年にわたる展示の軌跡を振り返ります。

2023年度

神戸女学院150周年記念展示Ⅰ

第5代院長 召天50周年

「C. B. デフォレスト展 一愛と美を求めて—」

開催期間：2023年5月23日～7月13日

初回となる2023年度は、第5代院長シャーロット・バージス・デフォレスト先生の召天50周年を記念し、その生涯と教育理念を紹介する展示を行いました。デフォレスト先生は、女性の高等教育機関の確立を目指し、日米双方からの理解と支援を得るために尽力された方です。本展示では、同志社大学名誉教授 故・竹中正夫先生のご著書『C. B. デフォレストの生涯 美と愛の探求』を元にして、図書館・史料室所蔵資料、及び公益社団法人神戸女学院めぐみ会よりお借りした貴重な写真や資料を中心に構成しました。

展示開催日初日の特別見学会は、めぐみ会の理事のみなさま、及び竹中正夫先生令夫人の百合子様をお迎えし、飯謙理事長・院長のご挨拶により開会しました。続いて中野敬一学長・学院チャプレンの祈り、藏中さやか図書館長のご挨拶の後、史料室佐伯裕加恵職員による解説とともに展示を巡り、デフォレスト先生が学院に注いだ愛と祈りの歩みを共有する機会となりました。

また7月8日に関連イベントとして、津上智実本学名誉教授による講演「デフォレスト書簡に学ぶ」がL-28教室において開催され、音楽学科における教育プログラムの基礎を築いたのはデフォレスト先

生であったこと、また、岡田山移転における先生の業績等を宣教師文書をひもときながらお話しいただきました。

会期中には学内外合わせて1,412名が来場され、学院の精神的伝統を体現し、その発展に大きく寄与したデフォレスト院長の生涯に触れる貴重な機会となりました。本展示は、150周年記念展示の第一歩として「学院の精神を改めて振り返る」役割を担いました。

2024年度

神戸女学院150周年記念展示Ⅱ

「岡田山移転90周年

—Beauty Becomes a College—」

開催期間：2024年5月21日～7月11日

2024年度は、岡田山移転90周年を記念し、学院の建築史に焦点を当てた展示を開催しました。山本通キャンパスや、実現には至らなかった大蔵谷キャンパス構想を紹介しつつ、岡田山キャンパス移転当時の教育理念、戦災や震災を越えて守り受け継がれてきた校舎、そして現在建設中の「小林季子記念館」へと続く学院の歩みをとらえる内容としました。

株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所より岡田山キャンパスの「原図 校舎配置図」を含む4点の原図を、公益財団法人近江兄弟社からはヴォーリズ夫妻の写真資料を、株式会社竹中工務店からは建設当時の写真資料を、株式会社日建設計からは小林季子記念館の模型を、そして神戸女学院めぐみ会からは各種紙資料をお借りし、学院建築の魅力を多面的に紹介しました。

5月21日に行われたオープニングセレモニーでは、来賓13名をお迎えし、大学事務長補佐兼学長室課長の司会で、中野敬一学長・学院チャプレンの聖書朗読、祈りに続き飯謙理事長・院長、藏中さやか館長によるご挨拶とテーブルカットが行われました。展示は大きな反響を呼び、会期中には2,285名が来場され、学院の象徴ともいえる美しいヴォーリズ建築の背景にある理念や歴史を、多くの方々に知っていただく機会となりました。

2025年度 神戸女学院150周年記念展示Ⅲ

「Bridging Generations

—神戸女学院の150年と織りなす未来—」

開催期間：2025年5月20日～7月19日

150周年の年である2025年は、学院の創立前史から現在に至るまでの本学の歩みを「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」を中心に振り返り、永久標語である「愛神愛隣」が世代を超えて受け継がれ、未来へと続く歩みについて想いを馳せる構成としました。

5月20日のオープニングセレモニーは、キリスト教主義に基づき礼拝形式で行われ、理事長・院長室課長の司会のもと、黙祷、中野敬一学長・学院チャプレンによる聖書朗読、祈祷と厳かに始まりました。来賓として、一粒社ヴォーリズ建築事務所顧問・中山献児様、神戸女学院めぐみ会会長・米津博子様、副会長・川崎敏子様、平尾美澄様をお迎えしました。

飯謙理事長・院長からは、学院の歴史が宣教師派遣を担ったアメリカンボードを出発点とし、多くの人々の参加によって織りなされてきたことが語られました。

展示は、本館ホールに掲示した卒業生より頂戴した、150周年を迎える本学への応援メッセージから始めました。続いて、アメリカンボードによる海外伝道活動の歴史をひもとき、本学貴重書庫に原本が保管されている市川榮之助による手書き『約翰傳福音書』（複製）やオルチン文庫の讚美歌（複製）等の貴重な初期キリスト教関連の資料や、本学のリベラルアーツ教育を象徴するヴォーリズ建築の原図面、そして同窓生による著作など、多様な視点から本学の教育と歴史を紹介しました。

また2025年は阪神・淡路大震災から30年の節目に当たるため、映像コーナーでは、本学の被災記録映像や、1962年に公開された吉永小百合さん主演の日活映画『明日の花嫁』より、今は現存しない北寮で撮影された約8分間の映像を、また明治・大正期の学院生活を記録した写真映像も公開しました。

会期中には1,820名の方にご来場いただき、学院の150年にわたる歩みと未来への願いを多くの来場者と共有することができました。

おわりに —150年の歩みを未来へ

150周年記念展示は3年間にわたり、学院が祈りと物心両面の支援の中で育まれてきた歴史を多くの方々と共有する貴重な機会となりました。創立以来、学院は時代の変化や困難に直面しても、変わらず「愛神愛隣」の精神とともに歩み続けてまいりました。150周年を迎える今年、この精神を新たに胸に刻み、次の世代へとつないでいくことが、私たちの務めであると感じています。

展示にご協力くださった関係各位、そしてご来場いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

(図書館課長)



愛校バザー当日の展示風景

創立150周年記念創立者記念日礼拝 及び墓前礼拝

神戸女学院創立150周年記念創立者記念日礼拝が2025年5月22日(木)13時20分から13時50分、神戸教会において守られた。

会堂には同窓生、現旧教職員等あわせて63名が集った。

例年、創立者記念日の礼拝は神戸修法ケ原の外国人墓地にあるタルカット先生の墓前で行われてきたが、今年は学院創立150周年ということで特別に神戸教会をお借りして守られた。狭い墓前で起立したまま行っていた礼拝が、空調の効いた教会内で着席で実施された。

オルガンの前奏に続いて、一同で讃美歌90番を唱和した。司式は中野敬一学院チャプレンである。聖書はマタイによる福音書25章14節から21節、タラントンのたとえ話が書かれている箇所である。

中野先生から「WELL DONE GOOD AND FAITHFUL SERVANT」と題する説教があった。

本日、5月22日は創立者記念日その日に当たり、中高大でも礼拝を行ったが、今年は創立150周年ということで特別に神戸教会でも礼拝を守っている。これまでの歩みを支えてくださった神様に感謝する。そしてこの歩みの先に未来がある。タルカット先生の生涯を覚え神様のめぐみを覚える時としたい。

改めてタルカット先生の生涯を簡単に辿ってみたい。先生は家族、隣人のために奉仕をしたあと、宣教師となり来日した。神戸女学院を創立し、学校を離れたあと岡山に転任したが、その後、鳥取や京都などさまざまな場所で活動した。「元来根付いたところから引き抜かれ、たびたび植え替えられるのが私の運命であるらしい」とご自身でおっしゃっているように、生涯を日本のために尽くされた。「この方を知ることができて良かった」と言われる人であり、自らにふさわしいタラントンをういて多くの人々を支えた先生の生涯は「愛神愛隣」が形になっているといえる。

こうしてタルカット先生のことを振り返る意義を考え、奉仕できる人となれるようにとの祈禱のあと讃美歌502番を歌い、主の祈りを唱え、頌栄541番を

歌った。歌詞はすべて参会者のほとんどがなじみのある1954年版が用いられた。

飯 謙理事長・院長は挨拶の中で、神戸教会牧師・大垣先生、宣教師・金先生に感謝を述べられた。創立150周年を迎えた神戸女学院の創立者記念日礼拝を西日本最初の現存する教会で守れたことは意義深い。湊川神社の宮司がスパイとなって出席した神戸教会の前身である元町講義所の記録が残っている。会堂は1888年に移転したが、タルカット先生も神戸教会の礼拝に出席したはずである。1931年に現会堂に建て替えられた際に旧会堂の欄干をソールチャペルにいただいた。このように足跡を辿ることができる。

最後に一同で学院歌を歌って礼拝を終えた。

ここで参会者は解散となり、墓前礼拝参加者20名は14時に教会前からマイクロバスで外国人墓地に移動した。

バスは市街地を抜け、山の中へと入っていった。

修法ケ原外国人墓地にあるタルカット先生の墓前で14時45分から短く礼拝が持たれた。

讃美歌90番を歌い、中野先生による新たな思いで多くの方に続く者となりますようにとの祈禱のあと、参加者は各自で5分ほど周辺を散策した。最後に讃美歌502番を歌って、中高部チャプレンが祈禱を捧げた。これまでの歴史は先人の祈りによって紡がれてきた。中高大一体となって教育の使命を果たせるように、と。タルカット先生のお墓を囲んで記念撮影をした。

15時15分、墓地を後にし、市街へと戻ってきた。神港学園高等学校近くでバスを降り、散会となった。

(神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵)



タルカット先生のお墓

めぐみ寄付講座等

以下のうち「寄付講座」「寄付講演会」については、神戸女学院創立150周年を記念して神戸女学院同窓会「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」からいただいた寄付によって実施した。

大学

【神戸女学院創立150周年記念めぐみ寄付講座】

「リベラルアーツへの招待」(のべ約2300名が履修)

4月21日 16:40~18:10

岡崎 成子

(卒業生、株式会社フジシールインターナショナル取締役代表執行役社長 CEO)

4月28日 16:40~18:10

西田 公昭

(立正大学心理学部対人・社会心理学科 教授)

5月19日 16:40~18:10

武内 陶子 (卒業生、フリーアナウンサー

(元 NHK アナウンサー))

5月31日 10:00~11:30

恒川 久美

(卒業生、株式会社 ANA 総合研究所 産学連携部兼地域連携部主席研究員)

6月10日 16:40~18:10

葉加瀬 太郎 (ヴァイオリニスト)

with 西村 由紀江 (ピアニスト)、

柏木 広樹 (チェリスト)

6月30日 16:40~18:10

山極 壽一 (総合地球環境学研究所 所長)

7月7日 16:40~18:10

E112回卒業生 T (卒業生、警察官 (大阪府))

7月28日 16:40~18:10

三島 有紀子 (卒業生、映画監督)

中高部

【神戸女学院創立150周年記念めぐみ寄付講演会】

6月18日 9:00~9:40

「まだまだ続く土佐の皮膚科医療」

佐野 ほづみ (卒業生、医師)

7月10日 9:00~10:00

国語科・中高部図書室共催企画「読書のための講演会」

「10年後、翻訳家はいなくなる？」

金原 瑞人 (翻訳家)

7月11日 9:00~10:00

2025年度生活指導課講演会

「スマホ時代の子どもたちのために」

竹内 和雄 (兵庫県立大学環境人間学部 教授)

2026年3月16日 9:00~10:00 (予定)

キャリアガイダンスII (予定)

【神戸女学院創立150周年記念めぐみ講演会】

7月8日 9:00~10:00

キャリアガイダンスI

「主体的に学びを、人生をデザインする」

高島 峻輔 (芦屋市長)

いずれも全生徒が参加

(総務人事課)

創立150周年記念募金事業

■理学館西側地域再整備の完成

2023年1月よりスタートした理学館西側地域再整備計画として、新棟（小林季子記念館）及び西門守衛室の新築工事、また、新棟周辺の舗装拡張整備を行い、来る2026年3月24日(火)の献堂式・定礎式をもって完成、4月より稼働予定です。

新棟は、ヴォーリズの精神を承継しつつもスタイルの模倣はしないという方針のもと、現代の建物として重要文化財を引き立て、かつ調和するよう考えられています。傾斜地を生かした低層建築とすることで、岡田山の豊かな自然に溶け込みながら周辺の重要文化財である理学館と社交館を引き立て一体となるデザインとなっており、地上部分にラウンジを設けることで、これまで裏面のように見られてきた理学館西側地域が神戸女学院の新たな顔となるよう建設いたしました。

新棟1階のラウンジ（めぐみコモンズ）には、スターバックスのコーヒーマシンを設置し、学生・生徒・関係者・教職員の出会いの場となるよう計画しました。

また、ラウンジの中庭にパーゴラを備えることで、新棟から理学館までが一体となった前庭空間を演出しています。

心理相談室は地下1階に配置することでクライアントのプライバシーに配慮しつつ、西側は岡田山の自然、東側はドライエリアからの採光を取り入れ明るさも感じることができる空間になっています。

心理学実験室は地下2階に設けることで静謐な環境を保つよう工夫されています。

1階及び地下2階には心理系キャリアサポートルームとして心理に興味を持つ全学部の学生を対象としたキャリア支援の場も配置しています。



小林季子記念館 南東側外観



小林季子記念館 ラウンジから理学館を望む



小林季子記念館 北東側外観

主要用途：

地上1階 全学共通施設としてのラウンジ

地下1階 心理相談室

地下2階 心理実験室・
心理系キャリアサポートルーム

延べ床面積：約 996.32 m²

建築面積：約 405.35 m²

構造種別：

鉄筋コンクリート造（地階）、鉄骨造（地上部）

なお、余談になりますが、元施設課専任職員で定年退職後も業務委託で従事しておられた安達 聡氏が一昨年夏にご逝去されました。安達氏は、この新棟建設に関しても非常にご尽力いただいておりますが、着工を待たずお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りするとともに、当該工事が無事竣工したことをご報告したいと思います。

■正門及び門衛舎の保存活用修理

文化庁の補助と記念募金を活用して2022年度から4箇年計画で実施してきた正門及び門衛舎の保存活用修理が2026年3月で完了いたします。今回の修理により、耐震性能の問題が解消されたとともに、学院の正面玄関である正門が美しく蘇りました。



正門及び門衛舎正面



正門及び門衛舎 北側より望む

■葆光館増築部のバリアフリー改修

中学部全学年4クラス化に伴い、葆光館増築部2階及び3階の2室を教室として使用することになりました。葆光館2階はタルカット記念館の3階と渡り廊下で接続されており、タルカット記念館のエレベータを利用して車で車いすでも教室にアクセスすることができていましたが、本工事により3階も同様に葆光館とタルカット記念館が渡り廊下で接続され、葆光館3階の教室もタルカット記念館のエレベータを利用してアクセスできるようになりました。



■桜並木の復元

桜（ソメイヨシノ）の寿命は、概ね60年から80年程度と言われています。昨年度、正門、音楽館前ロータリー、文学館横、グラウンド、めぐみ会館前などの老木に替え約40本のソメイヨシノを植樹いたしました。春には美しい花を咲かせて私たちを迎えてくれることでしょう。



（施設課長）

奨学金制度について

「150周年記念 共通テストスカラシップ制度」

神戸女学院は、「教育の伝統 ―三つの柱―」として「キリスト教主義」「国際理解の精神」に加えて「リベラルアーツ教育」を掲げており、学生が専門的な知識を追求するだけでなく、専門以外の分野・領域も幅広く学ぶことを目指しています。また、物事を多面的にとらえ、異なる視点を得ることも大切にしています。

2025年に学院創立150周年を迎えるにあたり、「神戸女学院のリベラルアーツ教育」が目指す学生像に沿って、5科目以上の幅広い科目の受験勉強に取り組んだ受験生を迎えることを目的に、「共通テストスカラシップ制度」を2025年度入試から新設いたしました。

この奨学金は、共通テストの得点率が55%以上（生命環境学部は52%以上）の基準得点率を上回った受験生は合格かつ奨学金対象となります。奨学金の内容としては、入学後に1年次と2年次の「授業料と教育充実費」の半額相当を減免し、3年次以降は、一定の成績要件を満たすことで最大4年間の適用を受けることができます。これにより、国立大学と同程度の金銭的負担で就学が可能になります。

初年度は、茨城県から長崎県までの幅広い地域から40名がこの制度の適用を受けて、入学しました。これらの学生を対象に、4月に学長との懇談会を開催しました。学生からは「他学科の授業を含め幅広く学べるリベラルアーツの学び」「就職や資格取得の強さ」などに魅力を感じ入学したとの声が多く聞かれました。9月にも同様に学長との懇談会を開催し、入学後も充実した学びと学生生活を過ごしている様子がうかがえました。

(大学事務局長)

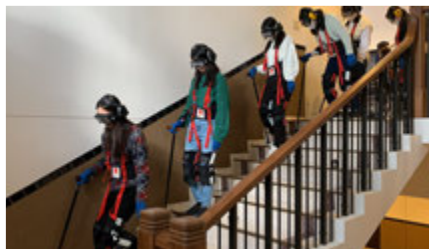
ユニバーサルマナープログラム

創立150周年を記念し、永久標語「愛神愛隣」の精神を体現し、心のバリアフリーを実践できる人材の育成を目指して、学生・生徒参加型企画「ユニバーサルマナープログラム」を実施している。本プログラムは、2022年度に試行し、2023年度から2026年度まで、大学1年生及び高等学部1年生の受検を必須とする形で本格的に展開している。これまでに約1,600名の大学生と約400名の生徒が3級を取得し、さらに約60名の大学生が2級を取得している。全新生を対象とした規模での実施は、西日本の教育機関では初の取り組みである。

「ユニバーサルマナー」とは、高齢者や障がい者、性的マイノリティ、外国人など、自分とは異なる背景を持つ人々の視点に立ち、思いやりのある行動や配慮を行うための心構えや姿勢を指す。この考え方を身につけるために「ユニバーサルマナー検定」が開発された。本プログラムでは、「ユニバーサルマナー」を身につけた学生・生徒を社会に送り出し、さまざまな場面で活躍することを目指している。

学生たちは、プログラムでの学びを活かし、西宮市主催の記念式典において案内・誘導を担当したほか、西宮市立北口図書館にてサービス向上のための活動にも取り組んだ。また、本学院においてもバリアフリーマップの作成や創立150周年記念式典における案内・誘導を行った。これまでに約50名の学生がボランティアとして活動している。

(150周年事務局)



2級講座での
当事者体験



記念式典で案内誘導を担当した学生

『神戸女学院150年史(仮)』

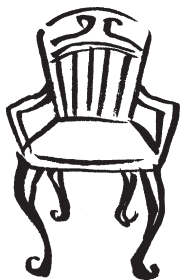
神戸女学院は2025年10月12日、創立150周年を迎えた。学院の150年の歩みを本として残すことは早くから話題に上っていたが、正式に150年史発行のための委員会（年史編纂委員会）が発足したのは2016年である。

『神戸女学院百年史』に並ぶ150年史を出版すべく、年史編纂委員会においてさまざまな検討が行われてきた。150年史は100年史に続く50年を中心に記述することとし、創立150周年記念式典までカバーすることとしたので、発行は2026年以降になると見込んだ。

途中、新型コロナウイルス感染症の影響で年史編纂活動は少なからず影響を受けることとなったが、コロナ禍明けから本格的に執筆作業を開始した。創立100年までは既刊の『神戸女学院百年史 総説』を基本に記述し、100年以降はまず101年からの50年を概観して、続いて法人、大学、中高部、他関連機関に分けて記述することとした。執筆は年史編纂委員会委員を中心に在職中の関係教職員が分担する方式を採った。

現在、原稿は8割がた集まっており、月1回のペースで編集会議を持っている。当初の予定では2026年度中に発行することになっていたが、諸般の事情により2028年度発行を目指して作業を進めている。

(神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵)

『Kobe College Historical Sketch
—神戸女学院の150年—』

2025年3月27日、神戸女学院創立150周年を記念して1冊の本が出版された。『Kobe College Historical Sketch —神戸女学院の150年—』（神戸女学院年史編纂委員会監修、佐伯裕加恵編）、こののち刊行され神戸女学院の正史となる『神戸女学院150年史(仮)』に先駆けての刊行である。

2021年2月開催の年史編纂委員会において正史とは別に生徒・学生が手軽に読める神戸女学院史のコンパクト版を出版したいとの提案があり、委員会でさまざまな検討を行った結果、A5版96ページのコンパクト版150年史を年史編纂委員会監修で発刊することが了承され、佐伯が原稿を執筆することになった。その後、2024年9月開催の委員会において、創立150周年記念式典のお土産としても使われることが決まった。

編集にあたって、本誌は『神戸女学院百年史 総説』をもとに再構成し、こののち刊行される150年正史の手引書的なものとなるよう工夫した。歴史参考書をイメージして、各トピックスは見開き2ページの中に写真、図版、関連年表と共に収め、そのページで完結するように編集した。

2025年3月27日に無事発行され、創立150周年記念式典に先立って、生徒・学生・教職員に配布され、式典当日の10月12日には式典出席者へのお土産として多くの人々の手に渡った。

(神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵)



150周年記念小冊子

150周年記念ロゴマーク

学生生徒・卒業生等を対象に記念ロゴマークを募集し採用されたもので、刊行物などに使われた。



●ロゴマークの意図

若葉のように新しい感性で未来に向かって学ぶ生徒・学生たちや、未来へ歩む神戸女学院を表現している。クローバーを突き抜ける3本の帯は、過去・現在・未来をつなぐ架け橋、そして身体・精神・靈魂の意味を込めている。4つの点は、大きさに強弱をつけることでロゴマーク全体の動き、未来への躍動感を与えている。

カウントダウンパネル

2025年10月12日の創立150周年に向けて、500日以上前から「あと〇日」と表示するカウントダウンパネルをデフォレスト記念館前と葆光館内中高部事務室前に設置した。日々更新を重ねながら、節目の日への期待と機運を高めてきた。創立150周年を迎えた当日、パネルには「あと0日」の文字が掲げられた。



記念フラッグ

2025年2月より正門、デフォレスト記念館前、エミリー・ホワイト・スミス記念講堂前、葆光館入口の4か所に記念フラッグを設置した。



記念サイト

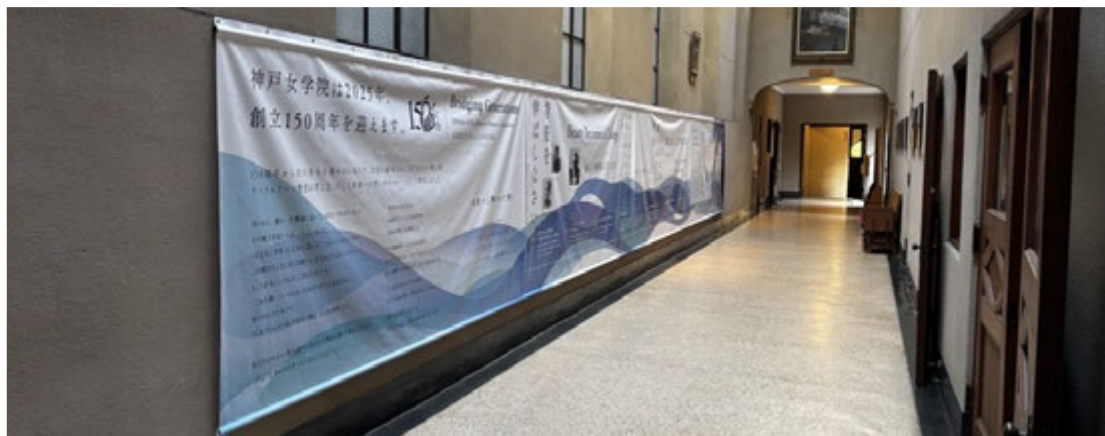
特設の記念サイトを設置し、記念映像、記念募金のご案内、卒業生からの応援メッセージの公開などを通して、学院の歩みと未来への想いを広く発信した。また、学生・生徒や教職員、家庭会を始め、めぐみ会やKCC-JEEなど学院と関係の深い多くの方々の協力を得て、カウントダウン写真を掲載した。

※記念サイト URL <https://150th.kobe-c.ac.jp/>



学内ポスター

150周年から次の歩みを進めるにあたり、大切に継承されてきたキリスト教主義 リベラルアーツ教育の考え方、そして未来への想いを伝えるメッセージを大型ポスターにして、総務館廊下に設置した。

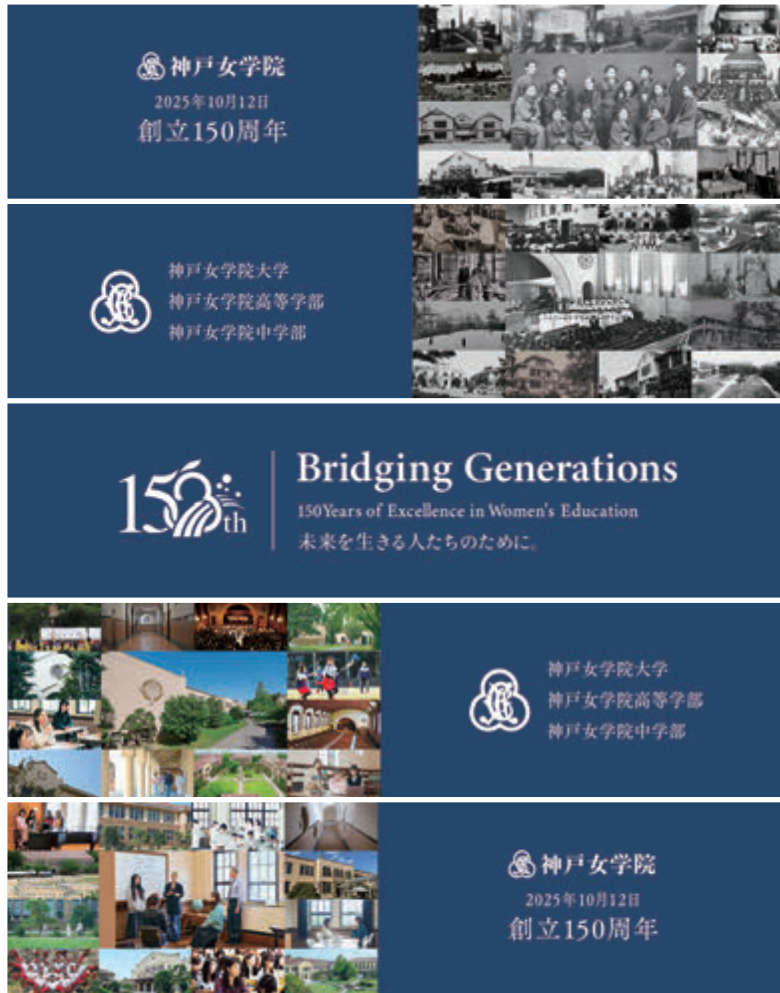


講堂横廊下

交通広告

阪急大阪梅田駅ムービングウォーク横に大型広告を掲出した。「女学校」として開校した神戸山本通時代の写真から岡田山キャンパスへ移転して現在に至るまでの写真と、創立150周年のメッセージを掲載した。

掲出期間：2025年10月6日～10月12日



阪急大阪梅田駅ムービングウォーク横

ステートメント



Bridging Generations

150 Years of Excellence in Women's Education

未来を生きる人たちのために。

川べりに、橋を一生懸命に造っているおじいさんがいました。
その様子を見た人は、こう言いました。
「そんなに骨折って丈夫に造らなくてもいいじゃないですか。
この橋はそんなに長くお使いになるわけではないでしょう。」
ところがそのおじいさんはこう答えたのです。
「これを築いているのは、自分のためではありません。
あとの人のためです。」
(C. B. デフォレスト 第5代院長の講話「ある日の感想」より)

私たちがキリスト教主義リベラルアーツ教育を通して育ててきたのはこのような考え方を持つ人であると言えるでしょう。


自分のためではなく
未来を生きる人たちのために
自分の得た力を使うこと。

その使命を一人ひとりが見出し、
まっすぐ向き合うことができるよう
広い視野で世界を見て、学び、考えるのです。

ここに連なるすべての女性が
次なる未来を想い、創り出せる人であるように。

神戸女学院はこれからも
さらなる未来へと繋がる橋を築いていきます。

私たち神戸女学院は2023年に創設150周年を迎えます。



150 Years of Excellence in Women's Education
未来を生きる人たちのために。

川べりに、橋を一生懸命に造っているおじいさんがいました。
その様子を見た人は、こう言いました。
「そんなに骨折って丈夫に造らなくてもいいじゃないですか。
この橋はそんなに長くお使いになるわけではないでしょう。」
ところがそのおじいさんはこう答えたのです。
「これを築いているのは、自分のためではありません。
あとの人のためです。」
(C. B. デフォレスト 第5代院長の講話「ある日の感想」より)

私たち神戸女学院は2023年に創設150周年を迎えます。
2023年を新たなスタート地点として、さらなる未来へと繋がる橋を築いていきます。

自分たちの手で
未来を築いていくための
自己実現を追求します。

その使命を一人ひとりが見出し、
まっすぐ向き合うことができるよう
広い視野で世界を見て、学び、考えるのです。

ここに連なるすべての女性が
次なる未来を想い、創り出せる人であるように。

神戸女学院はこれからも
さらなる未来へと繋がる橋を築いていきます。

神戸女学院
Kobe College

私たち神戸女学院は2023年に創設150周年を迎えます。



150 Years of Excellence in Women's Education
未来を生きる人たちのために。

川べりに、橋を一生懸命に造っているおじいさんがいました。
その様子を見た人は、こう言いました。
「そんなに骨折って丈夫に造らなくてもいいじゃないですか。
この橋はそんなに長くお使いになるわけではないでしょう。」
ところがそのおじいさんはこう答えたのです。
「これを築いているのは、自分のためではありません。
あとの人のためです。」
(C. B. デフォレスト 第5代院長の講話「ある日の感想」より)

私たち神戸女学院は2023年に創設150周年を迎えます。
2023年を新たなスタート地点として、さらなる未来へと繋がる橋を築いていきます。

自分たちの手で
未来を築いていくための
自己実現を追求します。

その使命を一人ひとりが見出し、
まっすぐ向き合うことができるよう
広い視野で世界を見て、学び、考えるのです。

ここに連なるすべての女性が
次なる未来を想い、創り出せる人であるように。

神戸女学院はこれからも
さらなる未来へと繋がる橋を築いていきます。

神戸女学院
Kobe College

沿革

- 1873 創業者来日、私塾開設
- 1875 ● 神戸山本通に女子寄宿学校(女学校)開校
- 1879 校名を「英和女学校」と定める
- 1880 5年制課程(中高レベル)開始
- 1885 1年制高等科(カレッジレベル)設置
- 1891 3年制高等科設置
- 1892 同窓会(現・めぐみ会※¹)創立
- 1894 「神戸女学院」(Kobe College)と改称
- 1909 高等科を専門学校令による4年制「専門部」として設置
- 1919 専門部を「大学部」と改称
- 1920 KCC(現・KCC-JEE※²)設立
- 1933 ● 岡田山にキャンパス移転
- 1947 新制中学部設置
- 1948 新制大学文学部(英文学科・社会学科・家政学科)、
新制高等学部設置
- 1952 音楽学部発足
- 1965 大学院文学研究科設置
- 1967 家政学部発足
- 1975 創立100周年
- 1976 文学部総合文化学科発足(社会学科を改組)
- 1993 人間科学部発足(家政学部を改組)
- 1995 阪神淡路大震災で被災
- 1997 震災復興新築建物献堂、大学院人間科学研究科設置
- 2000 創立125周年、大学院音楽研究科設置
- 2014 ヴォーリス校舎群重要文化財指定
- 2024 国際学部発足(英文学科を改組)
- 心理学部発足(心理・行動科学科を改組)
- 2025 ● 生命環境学部発足(環境・バイオサイエンス学科を改組)
- ↓ 創立150周年

公益社団法人 神戸女学院めぐみ会※¹

神戸女学院の全同窓生を会員とする公式同窓会組織。
133年の歴史があり、会員が神戸女学院で受けた「めぐみ」
に込めることを目指して活動されています。
在学生への奨学金給付、学生生活活動の助成金・客員
教員の招聘のためのご寄付、めぐみ会賞の授与等をいた
だいています。

KCC-JEE※²

Kobe College Corporation-
Japan Education Exchange

1920年、第5代院長 C.B. デフォレスト先生の呼びかけで米国の
中部婦人伝道会の助けによりシカゴに設立された本学院の支援団体。
岡田山校地の校舎建設の献金をお寄せくださいました。今日も中高
部英語教員、大学客員教員、奨学金等のご支援をいただいています。

永久標語

愛神愛隣

「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。」
これが最も重要な第一の戒めである。
第二も、これと同じように重要である。
「隣人を自分のように愛しなさい。」
マタイによる福音書 22 章 37～39 節

神戸女学院創立150周年記念行事・事業

神戸女学院創立150周年……………	1	創立150周年記念募金事業……………	14
神戸女学院創立150周年記念式典……………	2	奨学金制度について……………	16
神戸女学院創立150周年記念式……………	3	ユニバーサルマナープログラム……………	16
式 辞……………	4	『神戸女学院150年史（仮）』……………	17
ようこそ、岡田山へ……………	4	『Kobe College Historical Sketch —神戸女学院の150年—』……………	17
記念演奏……………	5	150周年記念ロゴマーク……………	18
神戸女学院創立150周年記念講演……………	7	カウントダウンパネル……………	18
創立150周年特別記念礼拝 「かかわらなければ」……………	8	記念フラッグ……………	18
神戸女学院創立150周年記念めぐみ講演会 ～森山良子コンサート～……………	9	記念サイト……………	19
神戸女学院創立150周年記念展示 I～IIIを振り返って……………	10	学内ポスター……………	20
創立150周年記念創立者記念日礼拝 及び墓前礼拝……………	12	交通広告……………	21
めぐみ寄付講座等……………	13	ステートメント……………	22
		沿 革……………	23
		永久標語 愛神愛隣……………	24

※記載の肩書き等は、行事等実施当時のものです。